

第 1 講

ベクトル

◇ 三角形の面積比の基本

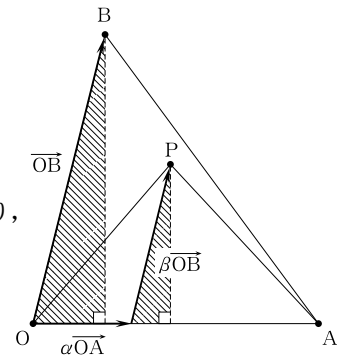
三角形 OAB に対し,

$$\overrightarrow{OP} = \alpha \overrightarrow{OA} + \beta \overrightarrow{OB}$$

とすると, 三角形 OAB と三角形 OAP は底辺 OA が共通であり,
高さの比は右図より

$$1:|\beta|$$

となる. (斜線部の二つの直角三角形が相似)



点 P が底辺 OA からどれくらい離れているのかは,

$$\overrightarrow{OP} = \alpha \overrightarrow{OA} + \beta \overrightarrow{OB}$$

の $\beta \overrightarrow{OB}$ により定まるといふことだ.

よって, この二つの三角形の面積比は

$$\triangle OAB : \triangle OAP = 1 : |\beta|$$

となる.

例題 1・1

三角形 OAB に対し, 点 P を

$$\overrightarrow{OP} = \frac{1}{3} \overrightarrow{OA} + \frac{1}{2} \overrightarrow{OB}$$

により定めるとき, 三角形 OAB と三角形 OAP の面積比を求めよ.

【解答】

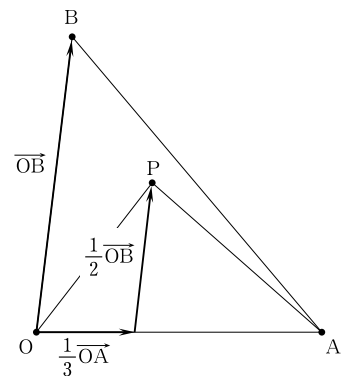
三角形 OAB と三角形 OAP は底辺 OA が共通であり,

$$\overrightarrow{OP} = \frac{1}{3} \overrightarrow{OA} + \frac{1}{2} \overrightarrow{OB}$$

より右図のようになり, 高さの比は

$$1 : \frac{1}{2}$$

となる.



よって、この二つの三角形の面積比は

$$\triangle OAB : \triangle OAP = 1 : \frac{1}{2} = 2 : 1. \quad \dots(\text{答})$$

面積比の練習問題

練習 1

三角形 OAB に対して、点 P を $\overrightarrow{OP} = \frac{1}{3}\overrightarrow{OA} + \frac{1}{2}\overrightarrow{OB}$ により定めるとき、面積比

$$\triangle OAP : \triangle OBP : \triangle PAB$$

を求めよ。

練習 2

三角形 OAB に対して、点 P を $\overrightarrow{OP} = 3\overrightarrow{OA} + 2\overrightarrow{OB}$ により定めるとき、面積比

$$\triangle OAP : \triangle OBP : \triangle PAB$$

を求めよ。

演習

1・1

三角形 OAB において, $OA=3$, $OB=1$ とし, 辺 AB の中点を M, $\angle AOB$ の二等分線と辺 AB の交点を D とする. さらに, 直線 OD に点 A から下ろした垂線の足を H とし, 直線 OM と直線 AH の交点を E とする. また, $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$, $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$ とする.

- (1) \overrightarrow{OM} および \overrightarrow{OD} を \vec{a} , \vec{b} を用いて表せ.
- (2) 直線 AH と直線 OB の交点を B' とするとき, $\overrightarrow{OB'}$ を \vec{b} を用いて表せ. また, \overrightarrow{OH} を \vec{a} , \vec{b} を用いて表せ.
- (3) \overrightarrow{OE} を \vec{a} , \vec{b} を用いて表し, $DE \parallel OA$ となることを示せ.

(鹿児島大〈改〉)

演習**1・2**

xyz 空間に 5 点 $A(1, 0, 0)$, $B(0, 1, 0)$, $C(-1, 0, 0)$, $D(0, -1, 0)$, $E(0, 0, 1)$ を頂点とする四角錐 V があり, 正四面体 $PBCE$ が V の外部にできるように点 P を定める.

- (1) P の座標を求めよ.
- (2) P は平面 ABE 上にあることを示せ.

(東京学芸大 〈改〉)